



発行所
株式会社 建設新聞社
〒849-0301
小城市牛津町乙柳1145-7
Tel. 0952-66-5750 (代)
FAX 0952-66-5751
購読料 月額5,775円(税込)
毎週火・木・土曜日発行
社団法人日本専門新聞協会会員
ホームページ
http://www.kensetsunews.co.jp
e-mailアドレス
kssaga@lime.ocn.ne.jp

ラフト&パイル工法など

研究成果発表会を開催

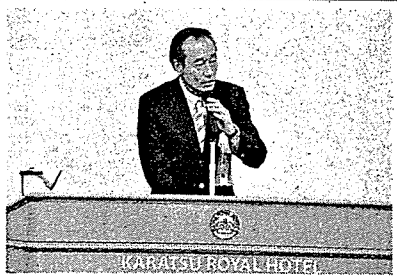
日本建設技術㈱グループ

日本建設技術㈱グループの2011年度研究成果発表会が8日、唐津ロイヤルホテルであった。発表会には関連5社から社員約180人が出席。日本建設技術㈱の原裕社長

長ら3人がラフト&パイル工法や粉末ゼオライト製造プラントの開発などに関する活動実績を報告した。発表会は毎年開催しており、今回で8回目。冒頭、原社長は「技術

開発力に磨きをかけることが建設業での生き残りにつながる。建設関連業で今まで蓄積してきたノウハウを守りながら、時代のニーズにあった選ばれる会社、持続可能な揺るぎない会社を目指していく。社員一人ひとりがグループの一員としての誇りを持ち、11年度も頑張つてほしい」と挨拶した。

成果発表では、技術戦略本部の林重徳統括本部



挨拶する原裕社長

長が、間伐材を活用した軟弱地盤補強工法「ラフト&パイル工法」の開発について講演。佐賀市川副町で行っている現地実証試験の途中結果などを報告し、その中で林本部長は「今回実施した現場

実証試験の追跡調査結果から沈下、側方流動、引き込み沈下、締付材に生じる引張応力の傾向を定量的に確認できた。今後、数値解析との整合性の検証を行い、設計に生かせるよう整理する」と説明した。

続いて、企画開発戦略本部水環境研究室の松尾保成室長が、粉末ゼオライト製造プラントについて研究開発の概要を説明し、「発泡廃ガラスのさらなる活用方法として、

陽イオン等の吸着能力を持つ粉末ゼオライトの製造装置の開発を行うことができた。今後は、ゼオライトを応用した商品づくりとして、環境分野、建設分野への市場進出を果したい」と話した。

原社長は10年度の間グループの活動内容や「サークルボード緑化工法」を紹介。同工法のポイントとして▽温暖化の緩和▽間伐材の有効利用▽建設業と林業の林建協働などを挙げた。また、同グループの基本理念を提案し、①廃資材、未来材料、間伐材で建設環境技術の革新を通して持続可能な会社と地域社会の発展に貢献する②われわれは未知な可能性に挑戦し、よりよい同グループの「未来」を創出し、実現していくで調整することを決めた。

このほか、発表会では功労者表彰、新入社員紹介も行われた。



発表会のようす